

□平成 23 年東日本大震災における消防の活動

岩手県釜石大槌地区行政事務組合

大槌消防署 署長 岩 間 淳

1 はじめに

平成 23 年 3 月 11 日(金)午後 2 時 46 分、三陸沖を震源とする東北地方太平洋沖地震(M9.0、最大震度 7)が発生し、東日本を中心に大きな被害をもたらしました。

この地震は、太平洋プレートと陸のプレートの境界で、長さ 450km、幅 200km にもわたる断層の破壊により発生した国内観測史上最大規模のものであります。

当署管内の岩手県大槌町の市街地及び役場では町長と課長級 7 人及び消防職員 2 人が津波の犠牲となり、町の機能が壊滅するなど人的・物的被害が甚大でありました。

2 地震の概要

(1)地震の規模等

発生時刻 平成 23 年 3 月 11 日(金)
14 時 46 分
震央地名 三陸沖
(北緯 38.1 度、東経 142.9 度)
震源の深さ 24km
地震の規模 M9.0(暫定値)
震度 6 弱

(2)津波警報等

3 月 11 日(金)14 時 49 分大津波警報
3 月 12 日(土)20 時 20 分津波警報に切替

3 月 13 日(日) 7 時 30 分

津波注意報に切替

3 月 13 日(日) 17 時 58 分

津波注意報解除

3 被害の状況

この震災により、人的被害について大槌町では平成 23 年 6 月 10 日現在で、死者 778 人、行方不明者 952 人となり、全町民の約 1 割が犠牲となりました。

物的被害では、全壊 3,084 棟、半壊 593 棟、一部破損 68 棟の被害が発生しました。

4 消防機関の活動及び被害状況

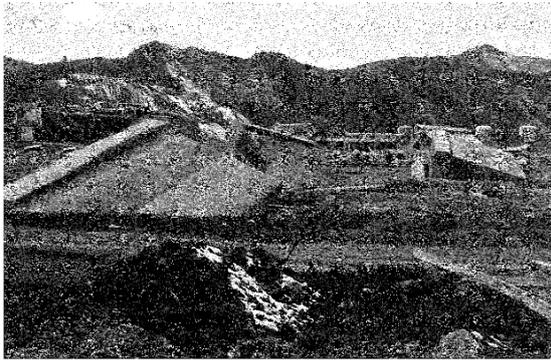
(1)消防署

3 月 11 日(金)海岸・河川水門の閉鎖及び消防車、救急車による住民への避難誘導、避難広報活動に従事。その後、津波により 13 人が消防署屋上に避難し孤立状態となる。

3 月 12 日(土)午前 9 時ころに自衛隊ヘリコプターで寺野地区町営野球場へ移動する。その後、町営野球場控室を拠点として、消火・救助・救急・人命検索活動に従事する。

(2)消防団

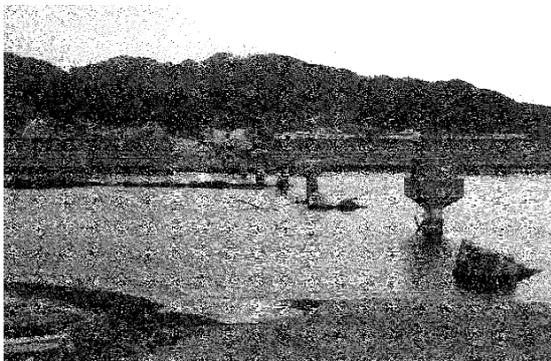
3 月 11 日(金)海岸・河川水門の閉鎖及び消防車による住民への避難誘導、避難広報活動に従事。



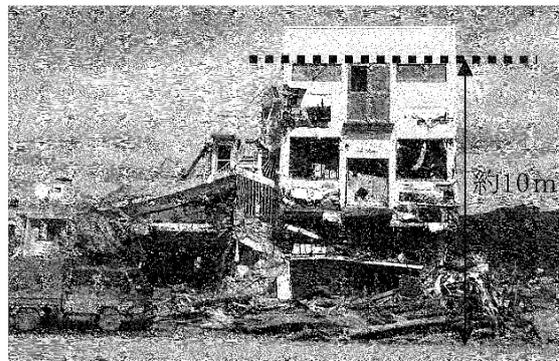
倒壊した防波堤



民宿屋上に乗った観光船「はまゆり」



JR山田線の鉄橋が流出



被災した大植消防署

表 1 被害状況

	人的被害		建物被害	車両等被害
	死者 (人)	行方不明 (人)		
消防署の主な被害	2	0	消防庁舎：1棟	車両：5台
消防団の主な被害	11	5	消防団屯所：7棟	車両：4台
婦人消防協力隊	4	10		
計	17	15	8棟	車両：9台

震災後には、消火・救助・人命検索活動に従事する。

(3)緊急消防援助隊

震災翌日には大阪府先遣隊が投入され、13日から懸命な消火・救助・救急・人命検索活動が実施された。(大阪府隊、大分県隊)

(4)消防機関の被害状況

消防機関の被害状況は表1のとおりです。

現在も、この大地震に対して緊急消防援助隊、自衛隊、警察、海上保安部、ボランティア等の多岐にわたる各機関の懸命の活動が続いています。

この大震災を「未曾有」の災害としてとらえることなく、想定を超える災害でも命が助かる住民の安心・安全を優先とした防災計画を策定することが課題でもあります。

最後にこの大震災で亡くなられた多くの方々のご冥福をお祈りし、被災地として1日も早い復旧復興に向けて尽力していきたいと思ひます。

5 終わりに